

E-9 主婦の一日の生活(その1) 住居内での動き
日本社大家政 武田 暁子 ○沖田 富美子

目的 主婦の一日の生活は、多岐にわたっている。一般に主婦と言っても、その生活内容は、家庭という背景により種々様々である。そこで主婦の生活行動がどのような要因によって制約を受けるとかを、一日の住居内での主婦の生活時間及び主婦の動線から追求するんとを試みた。それにより主婦の生活と住空間構成との間のかかわりあいかいかなるものかを追究するのが本研究の目的である。

方法 主婦の一日の生活時間及び住居内での動きを、調査者が一日追跡し調査記入するという方法をとった。但し被調査者の生活のプライバシーを侵さないため、午後8時～午前8時までには、被調査者自身に記入を依頼した。調査対象は、徳島市内及びその近郊の郡部に居住する21世帯の主婦、調査時期は、昭和46年7月～9月である。

結論 今回は、特に主婦の動きについて報告する。主婦の動きについては、室と室の間の敷居をまたぐ頻度を数えることにより、計量的に住まいの空間配置のあり方が把握できるものと考えたからである。

- 1) 食堂及び台所と居間の間の動き頻度数は、住居内では圧倒的に多い。
- 2) 台所と居間の間の敷居をまたぐ頻度数は、主婦の取業によって差がみられる。又家族員数が増加すれば、通過頻度も高くなる。
- 3) 全動き頻度数は、主婦の学歴及び年齢とは、相関関係はみられない。しかし建物の規模との間に関係がみられる。

(後記: 本研究にたずさわった越久村、若木さんに謝意を表す)